

五、委員会は労働条件並に保健衛生危険防止、補償互助共済娯樂休養風紀教育其他福利増進に就くの問題。

## 八、三菱の執れる鎮撫策

一方三菱内燃機工場に於ては職工側の怠業に對し持久的態度を執るの外に方途を失へるも當時建造中なりし一〇七號潜航艇の完成期九月なりしたため、出來得る限り職工の就業を慫慂するの要あり。即ち廿九日午前十時、組伍長を召集し上郷工場長は一〇七號の完成と同時に賃銀値上げを行ふ旨を聲明したるが、一般並職は是に満足せず。三十日も平常と異ならず出勤せりと雖、直ちに前日同様怠業し機械は空運轉を繰返すのみ。職工は三三五寄り集まり、協議に耽り一方會社側の警戒は前日に勝り守警を職工に装はしめ職工側の行動を監視せり。然るに午前十時頃守警に變装し入込める兵庫警察署一巡查が機械工場の一隅にて旋盤職工池田某三四名の者が額を鳩め何事か協議せる様子を見てツカ／＼其前に立塞がり、右の中一名を事務所に拉し行かんとしたる爲め池田某は承知せず、我々を引立てんとするなら氏名地位を曝にせよ』と口論を始めたなり。工場内職工全部は直に右の變装巡查を包圍し頓に殺氣立ちしも組長其他の鎮壓に依り幸ひに事無く不得要領の裡に引上げて行く巡查の後姿を眺め職工は期せずして一齊に喚聲を揚げたり、斯くして純然たる怠業を續けたるが此日又變装工場の空氣愈よ險惡を示し漸く半怠業の状態に陥り尙造船部へも飛火の兆あり。

茲於會社側は這般の形勢悪化に鑑み、工場の秩序維持上、急進的なる職工六名を解雇するに決し、七月一日午前九時先づ其一人なる澁谷照男（交渉委員）に解備を宣告し、且即刻出門を命じたり。

註：澁谷照男談「午前八時過ぎ呼出しがあつて間瀬工作課長に面會しますと突然何等の理由も明かせず、只理由は自分の胸に問へば判る。兎に角、本日限り解備するから給金を持つて歸れと出しましたが、自分は其理由を訊かない以上此儘に過ごす譯には行きません。若し會社が私を今回の首謀者と認めての解備ならそれは私には承諾する譯に行きません。私は其理由を會社に問ひ諒解出來なかつたら輿論に訴へる考へです（七、二、神戸又新日報）

右澁谷照男氏の馘首に對し間瀬課長の態度甚だしく高壓的なりしことは馘首の事實と共に一般職工の激憤を買ひ、約二百名の職工は期せずして事務所に殺到喊聲を擧げ事態容易ならざるものあり。即ち警戒中の非番應援の守衛、私服官憲等之が鎮靜に努め、漸く交渉委員を出すこととなり、午前十時頃道具工場職工松本勇太郎氏外五名の委員を選定し會社側と會見することとなりたり。然るに會社側は松本一名ならば會見すべしとて六名説を拒絶したれば、止むなく松本氏は單獨にて間瀬工作課長王江職工係長と會堂に於て會見したり。松本氏は先づ澁谷委員解雇理由を質問し、之に對し間瀬課長は最初の嘆願書提出當時よりの状勢を逐一説くところあり。松本氏は「當初は伍長等首唱となりて事を擧げ、形勢已に非なるを見て脱退を裝ひ、而も怠業を使囓し過日來會社發表の意見にして職工等に傳達せざるものあり。我等は必ずや課長と組伍長間に聯絡あり、其聯絡を以て我等一般職工の願意阻止せらるゝものと信じ居たるが、今承りて諒とするとところあり。不肖ながら解決の事に従ふべし」と意氣